

報道関係各位

2026 年 7 月吉日

こども家庭庁

企業の成長を通じた「こどもまんなか社会」の実現を地域金融機関が支援

「こどもまんなかリーディングバンク」始動！

全国 14 の地域金融機関が参画

企業価値向上につなげる「こどもまんなか投融資」を地域へ展開

若者とともに対話型セッションも実施



こども家庭庁は金融庁の協力のもと、7 月 15 日、「こどもまんなかリーディングバンク発表会」を開催し、令和 8 年度「こどもとともに成長する企業」構想推進事業費補助金に採択された全国 14 の地域金融機関を公表しました。

「こどもとともに成長する企業構想」は、企業によるこども・若者・子育て支援を企業価値の向上につなげることを目指す、こども家庭庁の新たな取り組みです。その地域での実装を担うパートナーとして、今年度初めて全国の地域金融機関を対象に「こどもまんなかリーディングバンク」を公募しました。採択された 14 の地域金融機関は、地域企業へのコンサルティングや「こどもまんなか投融資」などを通じて、企業の人的資本経営やこどもや子育てを取り巻く地域課題の解決を支援し、企業価値の向上と地域経済の活性化を両立する新たな地域金融モデルの構築を目指します。

当日は、採択された全国 14 の地域金融機関の頭取らが出席し、地域企業への支援を通じて「こどもとともに成長する企業構想」を全国へ展開していくための地域金融機関との取り組みを発表しました。また、第 1 部では「若者と地域金融機関による FR 対話」（※FR：Future Generations Relations）を開催し、全国の若者、リーディングバンク、こども家庭庁が、「住み続けたい地域にするための人や企業への投資」をテーマに意見を交わしました。

■第一部：若者と地域金融機関が未来の地域投資を議論

「若者と地域金融機関による FR 対話」

「こどもまんなかリーディングバンク発表会」の開催に合わせ、全国の若者 16 名、リーディングバンク採択金融機関の 14 名、こども家庭庁職員らが、こどもまんなか社会の実現に向けて「住み続けたい地域にするための人や企業への投資」を考える対話型セッションを行いました。

対話の内容は、グラフィックレコーディングで話し合いのプロセスを“見える化”することで共通認識を高めると共に、それぞれの立場から考えるこれからも住み続けたいや、その実現のための人や企業への投資について、お互いに理解を深めました。



グループ 1：東京と地域の選択肢・つながりの創出

発表者：百十四銀行 三澤まき代様

東京は地方に比べキャリア形成など選択肢が多い環境であり、それに対して地域の人々が独自の魅力を打ち出すことが重要な課題として挙げられました。地域の人々同士の強いつながりをいかに構築するか、また地域の魅力をどのように作り上げるかが議論の中心となり、地域金融機関として、地域の良い企業の魅力を学生に知ってもらうことが重要な役割であること、企業と学生、企業と企業のゆるいつながりを金融機関がしっかりとコーディネートすることの重要性と難しさが共有されました。

グループ 2：共創社会と金融の投資への転換

発表者：西武信用金庫 高橋一郎様

子育てだけでなく、人と人がつながる共創社会・協力社会の実現が重要テーマとして取り上げられました。若者が作りたい未来はすべて正しいという前提のもと、金融機関はそれを支援する役割があるとコメント。20 世紀の金融は融資が中心であったが、融資では未来に必要なお金を届けられないことから、今日のテーマである「投資」という言葉が、日本の金融が新たに取り組むべき重要な方向性ではないかと提起しました。20 世紀に作られた社会課題を変えていく若い世代への投資こそが、金融機関の新たな使命であるとの認識が示されました。

グループ 3：社会性への投資と経済合理性の課題

発表者：ふくおかフィナンシャルグループ 林健太様

学生の意見をライフ・ワーク・ソーシャルの 3 カテゴリーに分類すると、ソーシャルに関する意見が最も多く見られました。都会に住んでいるからこそ地域ならではのコミュニティや子育て環境への関心が高く、都市の住みにくさ・暮らしにくさへの課題意識も共有されまし

た。銀行などの金融機関は経済合理性を重視する傾向があり、社会性を重視した活動への投資が不足しているという問題が指摘され、やる気はあるがお金がない学生団体等への投資の必要性も共有されました。お金以外の投資として、地域企業と銀行が協業する形での「人や知恵の投資」という観点も意見として提示されました。

グループ4：居場所・人のつながり・ハードとソフトの両立

発表者：コミュニティ・バンク京信 榊田隆之様

10年後も住みたい街の条件として「居場所の存在」が最初のキーワードとしてあげられました。居場所のあり方は時代の変化とともに変わってきており、みんながひとつになれる居場所が減ってきているという危機感が共有されました。地域愛は地域全体で満ち溢れるものでなくても、個人レベルで周囲の人々と心でつながれる仲間・居場所があることが重要であることや、人と人をつなげるコミュニティナースやコンシェルジュのような「つなげる人」の存在が重要であるとの意見も出ました。経済的メリットのみを追求するのではなく、共感でつながるコミュニティや地域を良くしたい人・企業が集まってボトムアップで作ることが大切であると提起。学生はソフト面の活動を多く実施しているが、ハード面（物理的な場所）の整備も同様に重要であり、ハードとソフトの両面で住みたい場所を作っていくことが重要と提示しました。

グループ5：こどものための場所づくりと建物への投資

発表者：ほくほくフィナンシャルグループ 津村裕貴様

学生から「こどもも大人ものびのびと健康に生活できる地域」「こどもから大人まで安心して暮らせる場所」というテーマが挙げられ、どんなこどもになってほしいかという議論から、自由に考えが固定化されていない・のびのびしたこどもたちのための新しい場所の必要性が提案されました。理想の場所として、いろんなチャレンジができる広い場所、サードプレイス、こどもがアクセスしやすい場所という具体的な提案も出ました。金融機関の投資先として特定企業ではなく「建物」への投資を提案し、プレイパークやこどもたちが自由に騒げる図書館などが具体例としてあがりました。また、建物を作るだけでなく、性別・年齢を問わずあらゆる人が交流できるイベントを企画し、関わる人の多様性を確保することの重要性があげられ、銀行としての経済合理性を確保するためには地域企業との連携も必要不可欠であるとまとめられました。

グループ6：つながりを軸とした社会的活動への支援

発表者：琉球銀行 中村貴行様

グループで最も多く出たキーワードは「つなげる・つながる」で、学生より一人一人が個性を発揮して輝ける場所、すべての世代に優しい地域であれば住みたいという意見が出ました。学生の多くがソーシャルな活動をしており、社会的意義のある活動への継続的な支援の重要性が強調されました。経済合理性だけでなく社会性を重視した活動に、銀行として資金をつなげ・人をつなげることが重要な役割であるとの考えが共有されました。金融機関がソーシャルセクターと連携し、持続的な支援の仕組みを構築することが「つなぐ」銀行の姿として提示されました。



若者、各金融機関の意見を受けて、こども家庭庁 水田審議官より感想が述べられました。

「こどもまんなかりーディングバンク」のキックオフにふさわしい、白熱した時間だったと思います。こども家庭庁は、「こどもまんなか社会」を目指す取り組みを行っていますが、各金融機関の皆さまは今日の議論にもありましたとおり、こども、若者に加え、その他、地域の持続可能性など様々なことを総合的に考えながらいろいろな活動をされていると思います。

こども家庭庁の立場からすれば、こども、あるいは若者は未来そのものであって、こども、若者への投資は未来への投資だと思っています。地域金融機関の皆さまには、この分野についても、ぜひ力を入れていただいて、今後とも一緒に取り組んでいただければと思います。

また、学生の皆さんも地域金融機関やこども家庭庁の職員とお話しし、様々な考えを共有できたと思います。この経験が皆さま自身の成長や今後の活動にも役立ててもらえるとうれしいですし、こういう活動をもっと皆さま一人一人からも発信することで、こどもまんなか



のムーブメントを、社会全体で盛り上げていきたいと思います。今日のことをきっかけに、皆さんこれからも、ご協力いただければと思います。

こども家庭庁では、みんなで「こどもまんなか社会」を作っていければと思います。今後ともどうぞよろしくお願いします。

■第二部 全国 14 の地域金融機関が「こどもまんなかりーディングバンク」として始動 「こどもまんなかりーディングバンク発表会」

第二部では、令和 8 年度「こどもとともに成長する企業」構想推進事業費補助金に採択された全国 14 の地域金融機関の発表を行いました。

黄川田 仁志内閣府特命担当大臣（こども政策）、片山 さつき内閣府特命担当大臣（金融）より挨拶がありました。

■黄川田 仁志内閣府特命担当大臣（こども政策）

「こども政策は、人口減少対策を含め、地域と国家の未来を左右する重要分野です。こどもたちの命と安全を守り、健やかな成長を支える。子育てしやすい環境を作る。今、政府としても全力で取り組んでおります。国民意識調査のデータでは、こどもや子育ての環境改善には、職場環境の改善や地域での企業の取り組みに高いニーズが示されています。また、企業におけるこども・子育て支援の取り組みは、企業の人材確保や地域のお客様との関係強化、ブランド価値の向上等を通じて、企業価値向上の重要な要素となっています。さらに、地域の未来を支えるこどもを育むことは、地域の人的資本を強化し、地域経済、ひいては、地域金融機関の中長期的な経営にも重要です。この「こども・子育て支援」と「成長力強化」の好循環を強化することが重要であり、こうした考えから、昨年 11 月「こどもとともに成長する企業構想」を表明しました。先月には、総理から、関係省庁が一体となって、金融機関とも連携して、この政策構想を強力に推進するようご指示がありました。地域金融機関は、地域の企業の最も身近なパートナーとして、この好循環を生み出し、強化する大きな力を持っています。ぜひ、地域と国の未来を支えるこどもたちのため、また、企業と地域経済の持続的な成長のため、文字どおり“リーディングバンク”として、地域における取り組みの先導役として、企業におけるこども・子育て支援の取り組みを推進していただきたいと思います。こども家庭庁としても、金融庁をはじめとする関係省庁、企業、自治体と連携して、“リーディングバンク”の皆様と力を合わせて、「こども・子育て支援」と「成長力強化」の好循環に向け、全力で取り組んでまいります。」



■片山 さつき内閣府特命担当大臣（金融）

「高市政権では、“強い経済” “強く豊かな日本”の実現に向けた様々な政策を進めておりますが、足元では“日本成長戦略”の策定に向けて議論を重ねており、近々とりまとめ公表する予定です。金融面の取り組みとしては、私が座長を務める“新戦略策定のための資産運用立国推進分科会”において検討を進めた、“成長投資を促進するための金融戦略”を策定・公表する予定です。これらの戦略には、“地域金融力”の強化に向けた様々な方策を盛り込むとともに、“こどもとともに成長する企業構想”の推進のため、地域金融機関と連携した地域の中小企業への取り組みや支援策についても盛り込んでおります。



地域金融機関には、地域経済の、まさに要として、地域の企業の価値向上や地域の課題の解決に一層貢献していただきたいと日頃から考えておりますが、私も財務省、大蔵省時代を通じて地域の金融機関の皆様とは本当に長いお付き合いをいただいております。特に2005年に当選して最初の4年間は静岡県の衆議院の代議士でしたが、多くの女性の支店長が自然にいらっしゃることを実感しました。最近はもっと増えておりますし、ずっと拝見しておりますと、実力で採用された女性の職員が多くおり、地域でそれを目指す女性もたくさんいます。女性の、特に四大卒や院卒の方が地域で思ったような就職先がないと言って東京に一極集中することが多いのですが、それを緩和しているのが地域の金融機関ということをご昔から存じ上げており、ずっと応援をしております。本日、こども子育て支援に関して、その地域の金融機関が先頭に立っていただけることを、ますます期待が大きくなると考えています。地域金融機関は、地域企業との間で強い信頼関係を築きあげてこられたと承知しており、そうした皆さまが地域におけるこども・子育て支援のモデルとして地域企業を牽引していくことは非常に重要です。今後、このような取り組みが一層促進されることを期待して、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。」

各大臣の挨拶の後、採択された地域金融機関の発表会を行いました。全国14の地域金融機関の、代表者がそれぞれ登壇し、黄川田大臣、片山大臣と共に記念撮影を行いました。



岩手銀行 代表取締役頭取 岩山徹 様



コミュニティ・バンク京信 理事長 榊田隆之 様

こどもまんなか
こども家庭庁



埼玉りそな銀行 代表取締役社長 篠藤慎一 様



静岡銀行 取締役頭取 八木稔 様



西武信用金庫 理事長 高橋一朗 様



千葉銀行 取締役頭取 米本努 様



肥後銀行 代表取締役頭取 笠原慶久 様



百五銀行 取締役会長 山崎計 様



百十四銀行 取締役頭取 森匡史 様



ふくおかフィナンシャルグループ 取締役社長 五島久 様

こどもまんなか こども家庭庁



ほくほくフィナンシャルグループ代表取締役副社長 兼
北海道銀行 代表取締役頭取 兼間祐二 様



武蔵野銀行 取締役頭取 長堀和正 様



横浜銀行 代表取締役頭取 片岡達也 様



琉球銀行 代表取締役頭取 島袋健 様

また、本事業である「こどもまんなかリーディングバンク」については、こども家庭庁 参事官 湯山 壮一郎より説明がありました。

こども、子育て政策について、近年かなり拡充してきておりますが、こども、あるいは若者を取り巻く環境、さらには人口減少、少子化といった問題は、まだ歯止めがかかっていない状況だと認識しています。国民の意識調査を確認すると、やはり地域における職場の環境、それから生活環境の中での事業者様の対応というのが、国民の中でこども・子育て支援に関しては非常に高いニーズが示されています。昨年、黄川田大臣より「こどもとともに成長する企業構想」を公表しました。基本的なコンセプトの1つは「こどもまんなか社会」という社会的価値を増大させていくと同時に、地元企業の価値向上を図り、この好循環を回していくことです。先月6月には高市内閣総理大臣より、こうした未来への投資を進めていくために「こどもとともに成長する企業構想」を強力に推進することを金融機関と連携して取り組んでいくようにという指示をいただいております。

また、金融庁の地域金融強化プランにおいても、「こどもとともに成長する企業構想」について盛り込まれており、国の新たな成長戦略あるいは金融戦略に向けても、この「こどもとともに成長する企業構想」が基本的なコンセプトである企業のこども・若者・子育て支援と



成長力強化の好循環を作っていくという新たなビジョンを検討しております。

本日発表させていただきます『こどもまんなかりーディングバンク』は、その取り組みの中核の一つです。まず地域金融機関から力強いコミットメントを表明して頂いたうえで、お取引先、お客様、企業に対して、本業支援、あるいは融資を通じて様々な、サポートをすることにより、人材確保等を通じたお取引先のお客様の成長、それから地域におけるこども・若者・子育ての支援、ひいては地域経済、あるいは地域社会の持続的な成長というのを目指していきたいと思っております。今回発表する 14 の地域金融機関の皆様方にリーディングバンクとして認定させていただき、国とともに引き続き一緒に取り組んでいければと思っております。

引き続きのご協力、連携、それから力を合わせて地域経済を盛り上げていく、そしてこどもまんなか社会を構築していくということをお願い申し上げまして、挨拶の結びとさせていただきます。

■開催概要

開催日時：2026 年 7 月 15 日（水）8:40～10:45（受付 8:20～）

会場：大手町 プレイス ホール&カンファレンス
（〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目 3 番 1 号）

参加者：・内閣府特命担当大臣 こども政策担当 黄川田 仁志
（敬称略）・内閣府特命担当大臣 金融担当 片山 さつき

・こども家庭庁	審議官	水田 功
・こども家庭庁	参事官	湯山 壮一郎
・岩手銀行	取締役頭取	岩山 徹
・コミュニティ・バンク京信	理事長	榊田 隆之
・埼玉りそな銀行	代表取締役社長	篠藤 慎一
・静岡銀行	取締役頭取	八木 稔
・西武信用金庫	理事長	高橋 一郎
・千葉銀行	取締役頭取	米本 努
・肥後銀行	代表取締役頭取	笠原 慶久
・百五銀行	取締役会長	山崎 計
・百十四銀行	取締役頭取	森 匡史
・ふくおかフィナンシャルグループ	取締役社長	五島 久
・ほくほくフィナンシャルグループ （北海道銀行）	代表取締役副社長 （代表取締役頭取）	兼間 祐二
・武蔵野銀行	取締役頭取	長堀 和正
・横浜銀行	代表取締役頭取	片岡 達也
・琉球銀行	代表取締役頭取	島袋 健

プログラム：・第 1 部：「若者と地域金融機関による FR 対話」開始
・第 2 部：「こどもまんなかりーディングバンク発表会」開始

- ・フォトセッション
- ・内閣府特命担当大臣 こども政策担当 黄川田 仁志 挨拶
- ・内閣府特命担当大臣 金融担当 片山 さつき 挨拶
- ・発表会